

ラコルタ

吹田市立市民公益活動センター

からのお知らせ

※費用が明示されていないイベントは無料。
※申込期限が書かれていない場合は当日まで。

▼お申込み・お問い合わせは電話かFAXかメールでラコルタまで。
電話：06-6155-3167 FAX：06-6833-9851 メール：info@suita-koueki.org

テーマ
カフェ

3月21日(土・祝) 第3回「南千里かえっこバザール」
遊ばなくなったおもちゃの交換と
様々なワークショップ体験。
●とき：13:00～16:00 今年もやるよ！来てね！

毎月テーマが決まっています。参加された
皆さんと一緒に気軽にお話ししましょう！

3月10日(火) * 本人らしい暮らしを支える
「市民後見人制度について」
同制度を学び、地域でできることについて
意見交換します。
●とき：14:00～16:00 ●定員：先着15名

4月25日(土) * 「今をしっかりと生きる」
お寺の住職をゲストに迎え、仏教の観点から
「終活」について、参加者同志で話します。
●とき：14:00～15:30 ●定員：先着10名

5月21日(木) * 「SNS との関わり方を考える(仮)」
LINE、Facebook、Twitter などをはじめとする
SNS との関わり方について考えます。
●とき：19:00～20:30 ●定員：先着10名

5月15日(金) 税理士に学ぶ 活動計算書ってなに？
市民公益活動団体会計講座
現金出納帳の付け方からNPO法人に求められる
活動計算書の作成までをワーク形式で学びます。
※講座後、受講者の個別相談にも応じます(先着順17:00まで)
●とき：14:00～16:00 ●定員：先着20名

毎月開催
自分にあったボランティア活動を見つけませんか？
『市民公益活動入門講座』
●3月26日(木) 13:30～15:00
●4月21日(火) 19:00～20:30
●5月20日(水) 10:30～12:00 各定員10名

連載 私たちの団体・私たちの活動 第6回

市民公益活動団体インタビュー

Q 活動がはじまった
キッカケを教えてください

A 試合運営を市民の力で支
えることを目指し、
1999年2月から「ガンバ大
阪 市民スタッフ」の募集が
始まり、2000年に市民ス
タッフのメンバーから「GA
MBA GRASSA」が 誕
生しました。

Q 活動内容を教えてください

A 主には、万博競技場で入場ゲ
ートの管理や、車いす席へのご
案内を行なっています。昨年は「吹
田市ボランティアフェスティバル」
などのイベントにも参加しました。
また、メンバー同士の親睦を深める
ためサッカー大会、BBQなども行っ
ています。現在は、70名のメンバ
ーがおり、10～70代まで幅広い方
が参加しています。

Q 活動の中で感じる「やりがい」は？

A メンバーの中で共通しているのは
「大好きなガンバ大阪をボランティ
アという形で“支えているんだ”とい
う意識」です。ファンの皆さんを笑顔
でお出迎え・ご案内・お見送りをす
るといった活動の中でたくさんの発
見や喜びを得られるところに「や
りがい」を感じています。もうすぐ
新スタジアムも完成します。私
たちと一緒にガンバ大阪を楽しく支
えませんか。お待ちしております！

<GANBA GRASSA へのお問い合わせ・連絡先は (株)ガンバ大阪 市民スタッフ事務局(事務局)>
〒565-0826 吹田市千里万博公園3-3 電話：06-6875-7744

ぶちボラ 動きざかり
の方や家事・勉強に忙
しい方などに、週末や
余暇の新しい過ごし方として、「短
時間でできる(ぶち)ボランティア
活動」のプログラムを提供します。



ラコルタサポーター

ラコルタが行うイベン
トや活動を応援し、ボ
ランティアとしてお手
伝いいただきます。



↑詳しくはWebで

編集後記 南千里かえっこバザールプレ
企画「あそび場マスターになろう!」を担
当しました。約300人の参加があり、子
どもと大人と一緒に1つのものを作り上
げていく中でたくさんのいい笑顔に出会
うことができました。今回のような子
どもが主体性を持って関われる場が、地域
にもっと増えたらいいなと思います。(上村)

<発行責任者> 柳瀬真佐子
<編集スタッフ> 茨木由美・釜場正起・鍵谷誠一
上村有里・佐藤和男・春貴勇力・矢野真里加・
李 穎 (五十音順)

出会う→集う→育てる→実る
ラコルタ
吹田市立市民公益活動センター
〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号
千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851
Eメール info@suita-koueki.org
ホームページ http://suita-koueki.org

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた

ラコルタへのアクセス 阪急電車千里線「南千里駅」改札出て左、千里ニュータウンプラザ6階



出会う→集う→育てる→実る

ラコルタ

吹田市立市民公益活動センター

ラコルタの
ココに注目!
本号は...
自分in地域
「地域自治組織」の役割
中面特集ページ! →→→→→



各グループで打ち合わせ

認知症サポーター交流会

吹田市の人口に対する高齢化率は22%(2014年3月末)となり、高齢化は急速に進行しています。地域包括ケアを支える認知症サポーター養成講座の受講者数は市内で10,234人(2015年1月末)に上り、サポーターが主体的に地域で活動できるように、地域包括支援センターと活動に意欲があるサポーターが具体的な活動について、1年間検討しました。その中で、スキルアップのための「研修企画」、認知症の人や家族が気軽集える「居場所づくり」、「サポーターやオレンジリングの周知」の3つのグループが生まれ、それぞれ活動を始めました。1月21日に開催された「認知症サポーターフォローアップ研修」で、各グループが活動報告を行うと共に、一緒に活動する仲間の参加を呼びかけました。

2014年12月19日(金) 8月にラコルタで
行われた「分野
別団体交流会」
2015年1月20日(火) で、「障がい福祉

THE PICKUP

ラコルタの取り組みを紹介!

ラコルタのニュー
スレターは、市
内各施設や市民
公益活動団体に、
2014年11月29日(土) 毎号お届け
しています。11月29日(土)、ラコルタの運営や活動に協力して
いただいているラコルタサポーターの皆さんと、ニュースレター12月号の発送作業
を行いました。短時間からほぼ丸1日(!)ご参加の方まで、それぞれに関わっ
ている活動やラコルタとの関わり、近況などについて語り合いながら、同封するチ
ラシのセットや封入作業を行いました。作業日が土曜日だったこともあり、幅広い年
齢の方々にご参加いただき、サポーターの皆さんのご協力で、無事に発送するこ
うことができました!

「障がい福祉事業所職員交流促進・スキルアップ研修」
「すいた障がい福祉大楽ダイカク講座」
事業所同士のつながりが弱
い、「情報や経験の共有があまりでき
ていない」、「交流の場が限られてい
る」などの課題が明らかになりました。そこから、地域自
立支援協議会や吹田市社会福祉協議会と一緒に、連続講座を2回開催しまし
た。17法人23事業所から、のべ85名の参加がありました。1回目はスキルアップ
のための専門講義を、2回目はグループに分かれて、「地域との関わり」とい
うテーマでボランティアなどの地域人材について考えるワークショップを行いま
した。障がい福祉の向上に、ラコルタを含めた三者が協働したことで、利用
者へのサービス充実につながることが期待できる取り組みになりました。



個別支援計画作成についての講義



いつもありがとうございます!

ラコルタサポーターの活動紹介

ラコルタの ココに注目! 本号は… 自分in地域

吹田市では、住民自治の推進を図るために地域住民で組織する「地域自治組織」のあり方について、(仮称)吹田市地域委員会研究会を設置し、検討しています。この制度は、地域課題の解決や住民サービスを担うのは行政のみではないということが重要な視点であり、住民や地縁組織、NPOをはじめとする民間セクターとの協働・連携により、「新しい公共」を地域に創出していくことを目指すものです。地域課題が多様化する現在、それらに柔軟に対応するには、地域活動に個人が主体的に参加していくことが不可欠ですが、一方で、担い手の高齢化と後継者不足は否めません。住民一人ひとりが個人の自由を尊重しつつ関わられるような、「地域社会への参加の入口」となるしかけづくりを進めていくことが急務と言えます。

◎久 隆浩さん
(近畿大学 総合社会学部 教授)
(仮称)吹田市地域委員会研究会 副会長

生活者の視点にたった、まちづくり・都市計画・都市デザイン・環境計画の研究・実践をおこなっている。各自治体での数多くの審議会や協働型のまちづくりに参画。主な著作に「都市・まちづくり学入門」(学芸出版社)など多数。



他県の
取り組みを
ご紹介!

地域人材開発のネットワーク

「よこはま地域づくり大学校」

2009年「住んでいてよかった」と思える地域を自分たちの手でつくるために、学びあいの場づくりをスタート。5年間で257名もの卒業生を地域に輩出しました。受講生は、自治会・町内会だけでなく、行政やNPOのリーダーなど、60代を中心に幅広い年齢層の市民が集まり、地域の課題を協力し合いながら解決していく「自治の力」を身につけていきました。2011年には応用コースを設置、基礎コースのカリキュラムも見直し、少人数で現場に足を運ぶフィールドワークを重要視しました。2012年には受講生の関心テーマにより選択できる現地見学会を実施。課題分析によって問題解決のプロセスを学び、それぞれの思いをこめた「夢プラン」を作成、地域課題解決への実践につなげました。2014年にはフォーラムを開催し、「地域づくりの知恵袋」というブックレットを発行。またこの年に、協働の事業づくり大学校として市民局で事業化。現在、市内5区で実施されています。これまでの卒業生によるOB・OG会も積極的に開催され、サポーターとしてこれからの地域人材開発におけるネットワークを支えています。

URL: <http://blog.livedoor.jp/manabiai/>

ネットワークの要としての 地域自治協議会の役割

こんな地域にしたい、こんな社会にしたい、私たちにはいろいろな思いがある。これを実現するためには何らかの「力」が必要である。ではどんな「力」を私たちは使えるのか。今は市場社会なので「資金力」で実現することができる。しかし、十分なカネを出せる人は限られている。つぎに「権力」という力。これは行政がよく使う。行政でなくても、動員をかけてイベントに参加させるという手法は、会長が持つ権力で人を動かしていると考えられる。しかし、権力を行使できる人も限られている。

では、カネも権力も持たない人はどうすればいいのだろうか。じつはものごとを実現するために使えるもうひとつの力がある。それは「ネットワーク力」である。仲間がいれば人の手でいろいろなものが実現できる。茨木市の都市計画マスタープランの将来像は「人持ちでつながる人カタウン茨木」という。ここで書かれている「人持ち」は「金持ち」に対比させた言葉で、たくさんの仲間を持った人が「人持ち」である。

じつは各地でつくられている「地域自治協議会」は、ネットワークづくりのしかけなのである。地域にはたくさんの活動団体や、いろいろな人的資源がある。これらをつないでいけば、もっと力が増していく。そんなしかけとして地域自治協議会があると、私は考えている。そして、つながりを増やしていく鍵は「共感」だと思う。共感で生まれたつながりで活動を展開することを、私は「この指とまれ」方式と呼んでいる。「〇〇したい人この指とまれ」との呼びかけで仲間がつながるのがネットワーク活動なのである。組織を前提とした活動だけでなく、呼びかけが人をつなぐネットワーク型の部分を増やすことができれば、活動の担い手も増加し、多様化していくはずである。また、一人の思いから活動が生まれる、新たなやり方も見えてくると思う。いろいろな人が集い、呼びかけあえるような場として地域自治協議会が機能していくことを期待している。



告知

“吹田ではじめるソーシャルな生き方”
ëNカレッジすいた
5月開校決定!
乞うご期待!

4月
18日
(土)

“ëNカレッジすいた”開校記念講演会!
希望から起業へのまちづくり
～韓国 ソンミサン・マウルの事例から～
カフェ・劇場・育児施設など、住民自らが
事業を興してきたまちづくりの事例を学びます。

- 講師: 桔川 純子さん (NPO法人日本希望製作所副理事長)
- とき: 14:00～16:30 ●場所: ラコルタ ●定員: 先着50名
- ※お申込み・お問い合わせは電話かFAXかメールでラコルタまで。

太陽の塔のお膝元から ルネサンス

◎澤山 利広さん (関西大学国際部 教授)
市民公益活動審議会 会長
ëNカレッジすいた 運営検討委員会 委員長



かつての吹田は、高度経済成長の華やかさを凝縮したような街であった。初の大規模ニュータウンとされる千里には若い夫婦が居を構え、子ども達の笑い声が溢れた。吹田ジャンクションは、昼夜を問わず人と車の往来を捌き、「人類の進歩と調和」をテーマに掲げて開催された万博には、世界中の人々が押し寄せた。それから半世紀を経て、今の日本には落陽が射し込んでいるように思える。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、何の策も講じなければ、さらに半世紀後の人口は現在の3分の2となり、65歳以上が4割を占める社会になっているらしい。自治体の8割が消滅してもささやかれている。そのことは吹田にとっても対岸の火事ではない。今年開校される **ëNカレッジすいた** は、都市の発達を背景に人間性の解放を謳った文化革新運動、すなわちルネサンスを志向し、ユニークな姿で燦然と輝き続ける太陽の塔のような拠り所になりたいと願う。その使命は、街の資源や価値を再発見し、新たな魅力を創造できる担い手の育成である。これまで吹田市民は地域毎に特色あるコミュニティを形成し、自治体や企業が対応できない草の根の問題に対処してきた。これからの変革の時代にあっては、地域にこだわりながらも吹田の枠や年齢・性別・国籍などにとらわれない発想が大切である。**ëNカレッジすいた** は共に育てる学び舎である。

※ラコルタでは、**ëNカレッジすいた**の開校に向けて「運営検討委員会」を昨年9月に立ち上げました。委員会では、澤山さんをはじめ、吹田市内において様々な分野で活動されている方々にご協力をいただき、議論を重ねてきました。